

令和5年度

学校関係者評価報告書

令和6年10月30日

学校法人原学園
専門学校青山ファッションカレッジ

令和5年度 学校関係者評価報告書

専門学校青山ファッションカレッジは、「服飾分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国のファッション・アパレル関連産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会に貢献することを目的として運営されています。

本校では、平成29年1月に定めた「学校評価実施規程」に従って自己評価委員会を設置し、本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

その自己点検・評価の結果を、意見交換を通じて評価することを目的とし、学校関係者評価委員会を開催しましたので報告します。

1. 実施日時・場所

令和6年10月28日（月） 10:00～11:30

専門学校 青山ファッションカレッジ 会議室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員

安達 稔 業界関係者（ファッションデザイナー）

村山 由紀 保護者（ファッションビジネス科2年）

橋本 友美 卒業生（スタイリスト）

○学校関係（オブザーバー）

江口 崇裕 （校長）

面田 憲郎 （教務職員・主任）

大高 由香 （事務局職員・総務担当）

(2) 評価方法：令和5年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の10項目を実施。

(1) 教育理念・目的・育成人材像

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の募集と受入れ

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価委員の意見・評価

(1) 教育理念・目的・育成人材像

学校の理念・目的・育成人材像は、明確になっており、時代の流れや社会のニーズを踏まえカリキュラムに反映されている。

(2) 学校運営

業務運営方針を毎年策定し、教員・職員に周知し実際の業務運営に繋げ、事業計画に沿った適切な学校運営を行っている。

(3) 教育活動

教育課程は、教育理念を踏まえ、就職に必要な知識・技術の習得とキャリア教育を重視し編成されている。実務経験を有する教員を多く配置し、シラバスを設置して教育到達レベルを明確にするとともに、成績評価基準の明確化を図り、GPAによる学習成果の把握を可能にしている。

(4) 学修成果

学生一人ひとりに、きめ細かい就職指導を実施し、就職率は良好な結果となっている。資格取得は学生本人の自由意思としているが、対策授業・個別フォローなど適切な指導を行っている。

(5) 学生支援

就職担当・クラス担任を中心に全教職員が個別指導により手厚い就職支援を行っている。また、円滑な学生生活が送れるように、学生との面談や各種相談など、クラス担任を中心に全教職員が受け入れる支援体制となっている。経済的支援に関しては、家庭の事情に合わせて学費納入期限延長や分割などによる支援を行っている。

(6) 教育環境

教育上必要な施設・設備・教育用具等が整備され、メンテナンスも行き届き快適な学習環境を提供している。インターンシップ等の学外実習にも積極的に取り組んでいるが、欧州研修旅行はテロ以降、参加希望者の減少やコロナ禍により休止しており、再開に向けての対策が必要。防災・安全管理に関しては法令に基づく点検等を実施するとともに、校内巡回および防犯カメラを設置するなど、防犯・火災予防に取り組んでいる。

(7) 学生の募集と受入れ

学生募集に関しては、ホームページを充実させるとともに、専門学校への進学が多い全国の高校への学校案内の送付、および入学実績・資料請求が多い首都圏を中心とした高校への訪問・面会を実施し、情報提供を行っている。また、進学情報サイト・進学情報誌を利用した広報活動、および、学校説明会・体験入学・学校見学による学校概要の周知に努めている。

(8) 財務

一昨年度までは無借金であったが、コロナ禍を原因とした入学者数への影響は如何ともし難しく、昨年度から借入調達を実施している。次年度以降の自然回復に期待しつつ、同時に環境変化への対応策を検討し、早期の施策実施に努める。

(9) 法令等の遵守

法令を遵守し適正な学校運営が行われている。

(10) 社会貢献・地域貢献

アパレル業界のプロに向けた社会貢献活動が行われているものの（今年度は休止）、現状、ボランティア活動への取り組みはなく、今後取り組む場合には、学業への支障がない範囲で協力・支援を行う。

(11) その他

- ・ 入学者を増やす対策が必要と思われるが、今はどのようなことをしているか？
→ 現在、広報のパワーアップを図っており、HP・学校案内を全面的に見直すとともにSNS広報の増強を図っている。
- ・ 近年、企業の採用基準として、SNSの発信力を問われる時代で、学生の個人アカウントでの発信力を高めることを目指すべきだと思う。その発信力を就職や卒業後の仕事に役立てると同時に、学校内の出来事や楽しかったことなどを学生が自由に発信することで、学校の宣伝にも繋がると思う。
→ そのようなことが必要な時代であると認識している。学生に主体性を持たせて発信できるように、授業内外を通じて誘導していく方法を検討する。
- ・ 保護者の年代は、今でもGoogle検索で学校名からHP見ることが多いと思う。HPにも、学生や卒業生の魅力的な写真を目立つように載せたり、校外研修や企業連携など、せっかくの特色ある授業内容を開示して、多くの人に知ってもらうようにしたいと思う。
→ 現在HPの見直しを行っているので反映できるように検討する。
- ・ チャットGPTビジュアルで服を作れる時代が来ている。今後、学校の指導内容も変わっていくと思うので、早い時期にIT教育の在り方を考えることが重要だと思う。併せて、ITが浸透すると、仕事では今以上に人間性が重要になってくるので、人間性を育むことを学校（AFC）の特色にできるといいのではないかと考えている。
→ 学校としても3DモデリングやチャットGPTの教育について方向性を検討しているところで、近い将来、体系的にカリキュラムに反映させたいと考えている。
なお、チャットGPTなどの生成AIについては、今でもファッションビジネス科やファッションテック科の授業の中で取り組んでいる。人間性を育む教育は現在も行っているが、今後も引き続き力を入れていく。

以上